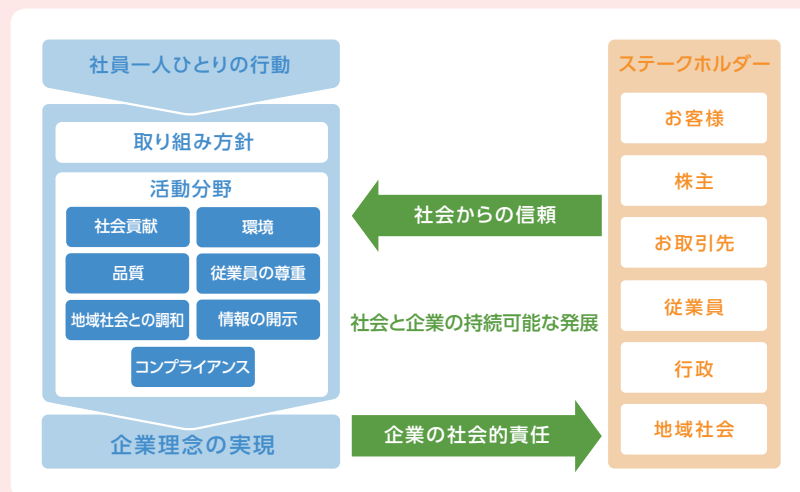


## 基本的な考え方

いすゞは、いすゞが社会と共に持続可能な発展をしていくためには、ステークホルダーの皆様との信頼関係を築きながら、企業の社会的責任を果たし、「企業理念」の実現を図ることが重要であると考え、これを「いすゞのCSR活動」と位置付けています。

この活動は、従業員一人ひとりが「取り組み方針」を理解し、それぞれの活動分野で行動することにより、企業理念の実現を目指していくものです。いすゞはこれからも、CSR活動により、企業の社会的責任を果たすと共に、社会からの信頼を獲得し、社会の持続可能な発展に貢献することを目指します。



📄 企業理念・行動指針  
▶ page 4

## 取り組み方針

お客様からの信頼	社会的に有用な商品・サービスを提供することで、豊かな暮らし創りに貢献し、お客様の信頼を獲得します。
公正かつ健全な行動	公正かつ自由な競争に基づいた取引を行います。また、行政・政治と健全かつ正常な関係を保つと共に、市民社会の一員として、反社会的勢力および団体とは断固として対決します。
企業情報の開示	株主様はもとより、広く社会的にコミュニケーションを行い、企業情報を適時・適切かつ公正に開示します。
従業員の尊重	従業員が能力を最大限発揮できるように、人格・個性を尊重し、安全で働きやすい環境を実現します。
環境保全への貢献	事業活動を通して、環境保全に取り組むことはもちろん、地球に暮らす市民として、社会や地域の環境保全活動にも積極的に取り組みます。
社会への貢献	良き企業市民として積極的に社会貢献活動を行います。
国際・地域社会との調和	国や地域の文化、慣習を尊重し、事業活動を通してその発展に貢献します。

いすゞグループのステークホルダー

いすゞグループは下記の皆様を主なステークホルダー（利害関係を有する方々）として、事業活動を行うとともに、CSR活動を展開しています。

主なステークホルダー	ステークホルダーへの責任	主な対話の機会・情報開示
お客様	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 製品・サービスの安定供給</li> <li>▶ 安全で安心な製品・サービスの提供</li> <li>▶ 価値のある製品・サービスの提供</li> <li>▶ 環境に配慮した製品・サービスの提供</li> <li>▶ 製品情報の適切な提供</li> <li>▶ お客様への的確な対応とサポート</li> <li>▶ お客様満足度の向上</li> <li>▶ お客様情報の適切な管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 日常の営業活動</li> <li>▶ お客様相談センター（電話、メール）</li> <li>▶ お客様満足度調査</li> <li>▶ 「お客様へのお知らせ」（いすゞホームページ）</li> <li>▶ 「CSRニュース」、「CSRレポート」（いすゞホームページ）</li> </ul>
株主	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 適切な利益の還元</li> <li>▶ 適時、適切な企業情報の開示</li> <li>▶ 企業価値の維持、増大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 株主総会</li> <li>▶ 「CSRニュース」、「CSRレポート」（いすゞホームページ）</li> </ul>
お取引先様	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 公平・公正な選定と取引</li> <li>▶ CSR活動への支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 日常の購買活動</li> <li>▶ 生産説明会</li> <li>▶ 購買方針説明会</li> <li>▶ 「CSRニュース」、「CSRレポート」（いすゞホームページ）</li> </ul>
従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 公平・公正な評価・処遇</li> <li>▶ 適切な人材の登用・活用と育成</li> <li>▶ 人権の尊重</li> <li>▶ 多様性の尊重</li> <li>▶ ワークライフバランスの推進</li> <li>▶ 労働安全衛生と健康への配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 従業員満足度（ES）調査</li> <li>▶ コンプライアンスアンケート</li> <li>▶ 労使協議会</li> <li>▶ 報告・相談ルート</li> <li>▶ ヘルプライン（目安箱）</li> <li>▶ 安全衛生委員会</li> <li>▶ 社内報</li> <li>▶ 「CSRニュース」、「CSRレポート」（いすゞホームページ）</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 法令遵守</li> <li>▶ 税金の納付</li> <li>▶ 諸施策への協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 自工会等の諸団体を通じての対話</li> <li>▶ 「CSRニュース」、「CSRレポート」（いすゞホームページ）</li> </ul>
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 地域の文化・諸慣習の保護・尊重</li> <li>▶ 地域発展への貢献</li> <li>▶ 地域活動への協力</li> <li>▶ 事業所での事故・災害の防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 工場見学</li> <li>▶ 地域イベントへの参加</li> <li>▶ 事業所イベントへの招待</li> <li>▶ 「CSRニュース」、「CSRレポート」（いすゞホームページ）</li> </ul>

マテリアリティ特定に向けた取り組み

企業の持続可能性報告書に関する国際的ガイドラインを策定・発行するGRI (Global Reporting Initiative)は2013年5月、重要課題(マテリアリティ)に焦点を当てた情報開示を求めるGRIガイドライン第4版を発行しました。いすゞは、このガイドラインに準拠すべく、以下のステップで重要課題(マテリアリティ)の特定を進めています。

2015年に下記のStep3(マテリアリティ仮説の設定)までを完了し、2016年のマテリアリティの特定に向けて検討を進めていましたが、自社・社会視点における検証作業に時間がかかっておりスケジュールを見直しました。Step6(マテリアリティの特定)は2017年までに実施する予定で検討を進めています。

2015年までに実施

**Step1 重要課題候補の抽出・整理**

- ① 以下から重要課題候補を抽出
  - ▶ 各種ガイドライン(GRI、ISO26000、SDGs、SASBなど)
  - ▶ 日々のステークホルダーとのコミュニケーション
- ② 上記を統合・整理しスクリーニングを行い、検討候補とすべき重要課題候補を設定

**Step2 社会、自社視点での評価仮説の策定**

- ① 社会視点、自社視点の評価軸を策定
- ② ①での評価軸に基づき、以下の評価仮説を設定
  - ▶ いすゞの事業に関する外部環境、特性、戦略、CSR活動状況などを踏まえて自社視点での評価仮説
  - ▶ 社会動向、業界動向などを踏まえ、社会視点での評価仮説

**Step3 マテリアリティ仮説の設定**

- ① Step2での二つの評価仮説を合わせて「マテリアリティ・マトリックス仮説」を整理
- ② 各重要課題候補を統合し、いすゞのマテリアリティ仮説を策定

2017年までに実施予定

**Step4 マテリアリティ仮説の検証**

(自社視点)

いすゞグループ社員の検証による自社視点評価の確定

**Step5 マテリアリティ仮説の検証**

(社会視点)

各ステークホルダーの検証による社会視点の確定

**Step6 マテリアリティの特定**

マテリアリティ特定により、いすゞCSR活動推進の方向性を特定